北海学園大学 学報

北海学園大学学報
発行・編集　北海学園大学
札幌市豊平区旭町4丁目1番40号　〒062-8605
☎011(841)1161　FAX 011(824)3141
https://www.hgu.jp/
gakuho@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp
発行日（6月1日、9月1日、12月1日、3月15日）
購読料　1部80円　年間320円
制作・印刷　株式会社人力社
北海学園大学 学報 バックナンバー

法学部 開設60周年

理性的かつ公共的視野をもった市民を育てる

1964年に開設された法学部が60周年を迎えた。法学部は、社会に起こる問題を分析し、解決方法を見つけるための法的・政治的なアプローチを身につけることを理念として、教育・研究に取り組んできた。

法学部長・教授　館田（たてだ） 晶子（あきこ）

法学部は1964年に法律学科が開設され、今年度で60周年を迎えました。当初は1学科でスタートしましたが、更なる専門教育の拡充を図るため、1999年に新たに政治学科を開設し2学科体制となりました。更に、法律学と政治学両方の基礎を理解した上で各自の関心に沿って専門的な学びを深めることのできるよう、2005年度には2年次学科選択制を導入いたしました。また、より一層研究を深めたいとの要請に応えるべく、法律学に関しては1986年に大学院法学研究科法律学専攻修士課程を、1992年に同博士（後期）課程を開設し、政治学に関しては2003年に法学研究科政治学専攻修士課程を、2005年には同博士（後期）課程を開設し、学部から博士課程までの高度な教育を担う体制を整えました。

多様なニーズに対応した学びの場として

またこの間、2005年に設置された法務研究科（法科大学院）からは2024年現在約40名の司法試験合格者が輩出しています。2018年の募集停止の後も、北海道大学法科大学院と連携した「法曹養成プログラム」およびそれに対応した「早期卒業制度」を導入し、法曹への道をつないでいます。

法学部は、多様な学生のニーズに対応すべく、カリキュラム改定を行ってきました。直近では2020年度にいくつかのカリキュラム改革を行っています。グローバル社会に求められる国際感覚を身につける機会として、ニセコイングリッシュオンリーキャンプやカナダ・レスブリッジ大学留学を含む「グローバルセミナー」を新設いたしました。法政大学法学部との学生交流制度を設け、学生に多様な学びの場を提供する試みも始めました。

法学部が開設されてから60年、人間でいえば還暦にあたる年です。暦が一巡りした今、新たな決意をもって、これからの民主主義を担う理性的かつ公共的視野をもった市民を育てるべく努めて参ります。

パネルディスカッションの様子

法学部開設60周年記念シンポジウム

世界の中の北海道 ―グローカル・ガバナンスの視座

法学部は開設６０周年を記念し、2024年12月14日、「世界の中の北海道――グローカル・ガバナンスの視座」をテーマとしたシンポジウムを開催した。当日は６０名を超える参加者のもと、まず学部長の館田晶子先生から法学部の沿革と本シンポジウムの開催趣旨について説明がなされたうえで、第一部として加藤信行（国際法）・津田久美子（国際公共政策）・若月秀和（国際政治学）の三先生から講演があり、続く第二部では参加者も交えたパネルディスカッションが行われた。それぞれのテーマは、「国際海峡の通航制度と津軽海峡：領海３カイリ凍結とその意味」（加藤）、「「GX特区」を考える――複合ガバナンスの観点から」（津田）、「冷戦後の日本外交――国力の低下と価値観への傾斜のなかで」（若月）と、いずれも北海道というローカルな場所で取り組むべきグローバルな課題をめぐるもので、それに沿う形での質疑応答もなされた。なお、本シンポジウムについては、法学部報51号においても特集記事がある。

法学部法律学科教授　菅原寧格

主な記事
令和6年度 卒業証書・学位記授与式 式辞――2面
退職教職員からメッセージ――3面
北海学園学術研究助成事業報告㉜ 法学部 淺野高宏教授――4面
研究室を訪ねて⑱ 経済学部 比嘉一仁准教授――5面
北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク HSFC（エイチフォース）に参加――6面
学園人脈記 第30回 株式会社品田電気商会 代表取締役社長 品田新一氏――7面
キャリア支援センター 就職活動インフォメーション――8面

国際海峡の通航制度と津軽海峡
―特定海域領海3カイリ凍結とその意味―

法学部政治学科教授　加藤信行

国際法上、沿岸国はその領海において、外国船舶の無害通航権を認めなければならない。領海のうちとくに「国際海峡」をなす水域は、海上交通の要衝であることから、無害通航権が強化されてきた。国連海洋法条約は、領海を12カイリ（1カイリ＝1852m）に拡大するとともに、新たに、無害通航権よりも自由な「通過通航権」の制度を導入した。

日本は津軽海峡を全面的に領海とすることができる。その場合、津軽海峡は「国際海峡」となり、海峡全体に「通過通航」制度が適用されるものと解される。しかし現在の国内法上、「特定5海峡3カイリ凍結」により、津軽海峡の中央部分には領海が設定されておらず、外国の船舶・航空機が公海並みに自由に航行・上空飛行できる排他的経済水域の航路帯が残されている。そのため、津軽海峡は「国際海峡」ではなく、「通過通航」制度は適用されない。

講演では、かかる津軽海峡の法的地位について、その理由や意義、利点と難点などを、国際法上の通航制度をふまえて考察した。

「GX特区」を考える
―複合ガバナンスの観点から―

法学部政治学科講師　津田久美子

講演では北海道・札幌が推進する「GX（グリーン・トランスフォーメーション）特区」について、国際政治経済学の観点からいくつかの論点提起を試みた。

再生可能エネルギー（再エネ）を促進する投融資を呼び込み北海道・札幌を「日本の再エネ供給地点」と「アジアの金融ハブ」にしようと目指す本施策は、気候変動、エネルギー安全保障、金融改革などの複数の政策領域を横断する。ゆえに焦点が定まりづらく、両立がむずかしい側面もある。特に金融ハブ化の試みは、香港などの求心力をもつ国際金融センターの存在を前にいくつものハードルがある。

そこで、再エネインフラが脱炭素にどれほど貢献するのかという「脱炭素ポテンシャル」が鍵になるだろう。国内外から投融資を呼び込み北海道・札幌が再エネ先進地になるというのであれば、国のエネルギー戦略のみならず気候変動の国際的な目標も視野に入れながら、その実現について道内の他産業や住民を巻き込んだ議論が今後ますます重要になるのではないだろうか。

冷戦後の日本外交
―国力の低下と価値観への傾斜のなかで―

法学部政治学科教授　若月秀和

1989年の欧州における冷戦崩壊は、地理的に遠く離れた日本にとっては、それほど切迫感がなかった。日本を取り巻く東アジアでは、1970年代の米中和解の方が、インパクトが大きかった。1980年代以降、NIESやASEAN諸国、中国は、経済発展戦略に乗り出し、冷戦終結時には、国力が頂点を迎えていた日本が、この地域の経済発展を牽引する役割を果たしていた。

ところが、冷戦終結とともに、日本の「成功物語」を支えてきた与件が崩れ始める。第一に、日本の長期の経済停滞と国力の低下、第二には北朝鮮の核武装化と「世界第二の経済大国」となった中国の軍事大国化である。これに対し、日本は日米同盟を強化し、民主主義や人権、法治といった西側G7諸国が共有する価値観を前面に掲げるようになる。しかし、グローバル・サウスの台頭、G7の比重低下、米国の内向き化といった全体的趨勢に鑑みれば、従来の日本の外交・安保路線に修正を迫られる日が来るのはそう遠くないのではないか。

変わる時代の金融論 激変する金融と、変わらない金融の機能を捉える
前田真一郎・西尾圭一郎・高山晃郎・宇土至心（経済学部准教授）・吉川哲生 著
ITの進展に伴い急速に変化する金融。キャッシュレス化が進み、インフレなど金融を取り巻く経済環境も変化している。金融の変化と、一方で変わらない金融の機能をわかりやすく解説。
定価 二、四二〇円（税込）
有斐閣

民主主義は甦るのか？ 歴史から考えるポピュリズム
細谷雄一・板橋拓己 編著／高橋義彦（法学部准教授）・他共著
ポピュリズムは民主主義をどのように崩壊させていくのか。また衰退した民主主義はどうすれば再生できるのか。現代の難問を解く上で、歴史からのヒントを与える注目作。
定価 二、二〇〇円（税込）
慶應義塾大学出版会

戦後フランスの前衛たち 言葉とイメージの実験史
進藤久乃 編／門間広明（法学部准教授）・他共著
大戦後の芸術運動を俯瞰する第一部、前衛周辺の作家たちを論じる第二部、詩に革新をもたらした音声詩・視覚詩の展開を見据える第三部を通して、戦後フランスの前衛運動の見取図を描き出す。
定価 六、六〇〇円（税込）
水声社

明治維新と〈公議〉 ―議会・多数決・一致―
伊故海貴則（法学部講師）著
近代の議会制度が導入された地域社会のなかで「公議」概念はどう変容し制度として定着したのか。静岡県の事例を調査・検討し〈合意形成のあり方の変容〉を切り口に実態に迫る。
定価 一二、一〇〇円（税込）
吉川弘文館

馬喰の流通経済学的研究 ―北海道 蘭越町・八雲町・森町・七飯町の事例を中心として―
松浦努（経済学研究科博士課程単位取得満期退学）著
かつて農耕馬などの売買に携わっていた馬喰。農民を騙して儲けたと言われるが、その実態は？本書は、農業の歴史が古い北海道の4町を対象に、馬喰の活動実態を調査・研究したものである。
定価 四、九五〇円（税込）
北海学園大学出版会

Differential Equations and Their Applications: Analysis from a Physicist's Viewpoint
中西襄・世戸憲治（名誉教授）著
本書は、数学と自然科学が好きな学生や研究者向けに、微分方程式とその応用について物理学者の観点から分析したものである。
US$ 98・00
World Scientific

私の最後の羊が死んだ
河﨑秋子（経済学部平成13年度卒・49期生）著
前代未聞の「羊飼い作家」誕生秘話エッセイ。最初の一頭を飼ってから、最後の一頭の出荷を見届けるまでの「羊飼い一代記」を綴る。『ともぐい』の直木賞作家、初のノンフィクション。
定価 一、六五〇円（税込）
小学館

令和6年度 卒業証書・学位記授与式 式辞

学長 森下宏美

北海学園大学を卒業される学生のみなさん、大学院を修了されるみなさん、まことにおめでとうございます。また、ご家族・関係者のみなさまにも、心よりのお祝いを申し上げます。

振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のための厳しい行動制限が課せられていた時期は、対面での授業もかなわず、クラブ・サークル活動に思う存分打ち込むこともできませんでした。思い描いていた大学生活とはほど遠く、学業の面でも課外活動の面でも、そして生活の面でも、苦労と不安の日々であったに違いありません。それらを乗り越えて、この度みなさんは卒業の日を迎えました。ともに慶びたいと思います。

北海学園大学での学生生活を終えた今、みなさんは、自分自身の成長をどのように実感されているでしょうか。また、こうなりたいと思う自分にどれだけ近づくことができたでしょうか。実現できたこと、達成できたこと、逆にやり残したこと、得ようとして得られなかったものなど、さまざま思い浮かぶことでしょう。それらのすべてが、これからのみなさんの人生の糧となり、目標となるでしょう。そして、目標実現の努力の先に、ひとりひとりのよき人生を花開かせていただきたいと、心から願っています。

これまでみなさんが経験した「卒業」は、上級学校への進学を意味しましたが、この度の「卒業」をもってみなさんは、生活を営む現場としての社会へとスタートを切ります。そこでみなさんは、仕事を通じてさまざまな人々と関わりながら、人生を歩むことになるわけですが、その社会が今、大きな転機を迎えています。ICTやAIの発達、グローバル化の進行は、私たちの仕事のあり様を大きく変えつつあります。また、SNSの発達は、情報発信やコミュニケーションのあり方に多大な影響を及ぼしています。そして、地球温暖化や人口減少が、社会の存立そのものを脅かしています。みなさんがこれから就かれる仕事は、どのような分野の仕事であれ、これらの新しい現実への挑戦となるでしょう。

この挑戦はもうすでに始まっていますが、そこに必要なのは、新しい知恵の創造と、その知恵を活かす人々の協働です。みなさんが本学で身につけた学問する力が、その助けとなってくれます。学問は、他者と共有できる新しい知を生み出そうとする、社会に開かれた能動的な活動です。学問は決して学者や研究職の者だけがする、閉ざされた営みではありません。研究対象はあらゆる仕事の現場に見出せるでしょう。また、新たな知見を社会で活かしていくためには、学問の精神を身に着けた多くの人々の協働が必要です。みなさんには、学問をも一生の友として、新しい現実に挑み、よりよい社会の実現を目指していただきたいと思います。

もちろんそれは、みなさんだけにではなく、大学自らに課せられていることでもあります。みなさんの母校として、共によりよい社会を目指し、そしてみなさんの挑戦を応援し続けたいと思います。

北海学園大学は今年、前身である北海短期大学の開設から数えて、創基75周年を迎えます。その第2期生に、今年99歳になられる神馬文男さんがいらっしゃいます。

神馬さんは、15歳で軍隊に入り、終戦後、2年間にわたってシベリアに抑留されました。神馬さんが再び故国の地を踏んだのは、21歳の時でした。その神馬さんが何よりも渇望したもの、それは学びの場でした。「北海学園大学がその望みをかなえてくれた」、神馬さんはそう語っておられます。卒業後、神馬さんは、中学校や高校で教鞭をとりながら、「自分を試したい」との一念で、国内外の大学で学びました。その間に、シベリア抑留記の編集や、ドストエフスキーの『罪と罰』の訳本の出版に携わるとともに、シベリア抑留体験を語る会の語り部として、戦争を繰り返してはならないと、今もなお訴え続けていらっしゃいます。「一回きりの人生をどう使うか。やろうと思えば何でもできる。たくさん学び、語り合って、悔いなく生きてほしい。」若い人たちに向けた神馬さんのメッセージです。私たちの大先輩のこの言葉を、その生き方とともに、胸に刻んでいただきたいと思います。私も、自身への励ましとしたいと思います。

最後に、みなさんの未来が明るく輝かしいものであることを心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

トピックス78

経験環境を改善するAI

経営学部教授 近藤弘毅

先日、10年ほど前に卒業したゼミOBから「AIを考慮したキャリア形成」について相談を受けました。AIによる「仕事の消失」は以前から議論されており、10年前の論文では「定型的意思決定」の仕事が主でした。しかし最近では、生成AIの発展で「非定型」な仕事こそ影響を受けると考えられています。

私の講義では、企業のビジネスモデルの歴史的変遷を扱っていますが、技術革新への対応もまた変化してきました。19世紀初頭のラッダイト運動では、職人が機械の導入に反発しました。また、20世紀初頭にアメリカで刃物の量産技術が確立されると、シェフィールドは職人技を守るため奢侈品に傾倒して衰退した一方で、ゾーリンゲンは量産技術と職人技を融合し、高級実用品で成功しました。現代では、新技術を「代替」ではなく「補完」として捉え、人間の仕事を拡張しようという前向きな姿勢が一般的なようです。

こうした視点から、プラハラッド博士らが著書『コ・イノベーション経営』（2013）で提唱した「経験イノベーション」に注目しています。現代では、イノベーションの対象は製品ではなく「顧客の経験」であり、AIなどの先端技術は「経験促進要因」として「経験環境」を改善する役割を担います。

大学でもAIを活用し、学生の経験環境の向上が図れないでしょうか。例えば、正課外での自学支援として文献探索やレポート執筆を対話的に指導したり、キャリア支援で自己分析や業界分析をサポートするAIが考えられます。それには、各教員が専門知識をAIに学習させたり、学生の学習ポートフォリオをうまく共有する必要があります。こうした「経験の共有」を通じて、学園生に適した学習環境を構築することが、教職員の新たな役割になるかもしれません。

奇しくもこれは冒頭のOBが在籍時にゼミで輪読した本でした。当時まだ生成AIは不在でしたが、「経験」という個人の主観的世界を軸としたこの考え方はAI時代にこそ有効だと感じます。ますます不確実な時代を生きなければならない若者が、仕事のあり方を考えるヒントになる著書ではないでしょうか。

令和7年度

入試状況

令和7（2025）年度一般選抜が、例年と同じ日程の2月9日から12日までの4日間、札幌会場（豊平校舎）と5つの地方会場（旭川・帯広・函館・盛岡・東京）で実施され、4,326名が受験しました。

今年の志願者数は、一般選抜が全体で前年度よりも0・4%増となりました。これは18歳人口が若干の増という状況も要因であると思われます。一方、大学入学共通テスト利用選抜（I期）につきましても、全体では前年度よりも23・4%の増となりました。こちらは一部学部における入試制度変更も関与しているものと思われます。これらの選抜試験合格発表は2月24日に行われました。

それ以外の入試制度である学校推薦型選抜や課題小論文・社会人・海外帰国生徒・外国人留学生の特別選抜については令和6年11月24日（日）に実施されましたが、今年度出願数は783名でした。

学部学科ごとの各入試状況は、次の表の通りとなります。

令和7年度　入試状況　（単位／人）

部	学部	学科	志願者数 学校推薦型・特別	志願者数 一般	志願者数 大学入学共通テスト	合格者数 学校推薦型・特別	合格者数 一般	合格者数 大学入学共通テスト
1部	経済	経済	107	1,202	398	106	563	223
		地域経済						
	経営	経営	56	614	468	54	242	198
		経営情報	37	425	304	37	204	107
	法	法律	129	671	291	128	327	157
		政治						
	人文	日本文化	64	197	189	64	109	123
		英米文化	40	203	201	40	141	143
	工	社会環境工	23	73	96	23	65	89
		建築	38	123	133	36	106	111
		電子環境工	21	141	200	21	114	166
		生命工	21	87	108	20	73	102
	1部合計		536	3,736	2,388	529	1,944	1,419
2部	経済	経済	34	236	164	34	216	108
		地域経済						
	経営	経営	49	142	−	49	99	−
	法	法律	119	207	−	107	303	−
		政治						
	人文	日本文化	29	56	39	25	36	34
		英米文化	16	32	29	15	29	31
	2部合計		247	673	232	230	683	173
1・2部合計			783	4,409	2,620	759	2,627	1,592

※経済学部・法学部は学部単位の募集
※2部合格者数は第2志望合格者を含む

学芸員課程

学生の展示が小樽市総合博物館で開催中

本学学芸員課程の受講生が、小樽市総合博物館学芸員の蟬塚咲衣氏（北海学園大学非常勤講師）の指導のもと企画した展示が、本館回廊で開催されている。

本館回廊展1「昭和の写真から今を見つける」では、写真家である兵庫勝人氏が撮影した1970年代の小樽の写真と、同一構図で撮影した現在の小樽の写真を並べて展示。現在の小樽の写真は、2024年夏に行った北海学園大学と立命館大学の共同調査で撮影された写真がもとになっている。受講生は約半年間の準備期間で、チラシやパネルのデザイン制作、展示写真の選定、解説文の作成、ポスターの掲示、チラシの配布準備など、様々な作業を通じて博物館の展示ができるまでの工程を学んだ。

また、蟬塚氏が企画した、本館回廊展2「地図でつながる街の記憶―私たちの想い出の小樽」も同時に開催されており、本学の学生も参加した小樽市総合博物館のワークショップで募集した「小樽の想い出の写真」や、立命館大学の学生が小樽滞在中に取り組んだ「小樽の魅力」、「ガッカリ小樽」を見つける課題の成果について紹介している。回廊展1・2は3月30日まで開催している。

展示に携わった学芸員課程の受講生

アセスメントテスト GPS-Academic による問題解決力測定

本学では、学修成果を学生自身が振り返る機会を提供するとともに、キャリア支援プログラムの一環としてアセスメントテスト「GPS-Academic」を実施しています。このテストは、現代社会でとくに必要となっている問題解決力を支える「思考力」を、批判性／協働性／創造性の3つの視点から測定し、「問題解決に向かう姿勢・態度」や「問題解決の経験」もあわせて測るものです。

結果は個別に分析がなされ、学生一人ひとりに「個人結果レポート」が返却されます。加えてフォローアップセミナーが開催され、"これからの学生生活の過ごし方" や "今の社会で必要とされる力を今後どのように磨いていく必要があるか" などを共に考えていきます。

北海学園大学は今後とも、こうしたアセスメントや各種調査を通して学生支援に取り組んでまいりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

永年勤続者

今年表彰された永年勤続者は次のとおり。

北海学園大学
▼40年勤続（教員）山本隆範（工）（職員）石木田忠義（経営）
▼30年勤続（教員）森下宏美（学長）
▼20年勤続（職員）及川雅文（入試）、大前理恵（庶務）、清永麻衣子（会計）、斉藤哲平（法）、佐野希美（図書館）、高橋愛（教務）
▼10年勤続（教員）岡本直貴（法）、小幡卓司（工）、菅原滋晴（工）、松浦和宏（法）（職員）大江みゆき（庶務）

北海商科大学
▼20年勤続（職員）北浦淳市、引谷俊彦
▼10年勤続（職員）森元牧子

北海高等学校
▼30年勤続（教員）大鐘純子
▼20年勤続（教員）菊池清則
▼10年勤続（教員）淺井史緒、近藤剛

北海学園札幌高等学校
▼20年勤続（教員）原子緑

法人本部
▼20年勤続（職員）石崎貴絵、竹田直弘、和田幸憲
▼10年勤続（職員）佐藤淳一

教育振興会

教育振興会では、昨年度につづき今年度も多くの皆様からご寄付をいただきました。

在籍する留学生から対象者を厳正に選考し、令和6年12月13日に学長より10万円の奨学金（奨学金C）を支給しました。

▶奨学金受給者
経済学研究科経済政策専攻
博士（後期）課程3年
孟 浩宇さん

訃報

名誉教授　嵯峨 浩先生（69歳）が令和6年11月6日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

嵯峨浩先生《ご経歴》
昭和54年室蘭工業大学土木工学科卒業、昭和56年北海道大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了、平成3年工学博士（北海道大学）、昭和57年苫小牧工業高等専門学校土木工学科助手、平成3年本学工学部助教授、平成7年同教授（水理学Ⅱ・演習など担当）、平成7年大学院工学研究科修士課程担当（水循環工学特論など担当）、令和4年退職。

退職教職員からメッセージ

教育研究、大学運営など長年にわたりご尽力いただいた教職員の方々からメッセージをいただきました。

経営学部教授
大平（おおひら） 義隆（よしたか）

死をまつ床で、悔しがらないように！

私は、神奈川県に生まれ、結婚して横浜に住み、長野の短大につとめ、次に新潟の大学に勤め、経営学部開設の時に採用され都会にやってきました。北へ北へとやってきました。妻と子供に無理をさせ、我儘に生きてきました。家族への感謝を忘れたら罰が当たると、心得ています。以来、22年間、北海学園で『経営学』を教える教員をしてきました。ここまで二つの大学を経由してきた感想として、この大学は経営者、教員、学生、どれも素敵な大学だと思いました。三つそろっている大学はあまりないように思います。しかも、素敵さのレベルがどんどん上がってきました。こんな素敵な大学にいさせていただき、これまでお世話になったお礼だけを述べようと思っていましたが、それでは紙面を満たさないので、一言申し上げます。

私も、人並みに生きるテーマはあります。そのことに関連してはなさせていただきます。この私にとっての生きるテーマですが、残念ながら、すぐに忘れてしまいます。悲しいことに、このメッセージの原稿を頼まれるといった、外から刺激がなければ思いだすことは少ないのです。この、ときどき思い出す私の生きるテーマは、「死を待つ床で、悔しがらないようにすること」です。「死を待つ床についたとき、周りから聞こえてくる声、『この人、何のために生きてきたんだろうね、つまんない人生だったよね』、と言われないようにすること」です。

日本人は一般に、周囲を気にする能力を教育され、状況に合わせ、組織に適応力をつけています。他方、我儘、自己主張、利己的行動、自分勝手な行動、これらをネガティブなものと捉え、相互抑制、自己抑制しているようです。するとどうでしょう。所属を失うときに、自分は何のために生きていけばいいのだろう、等と思ってしまうかもしれません。

私は、大学の研究者ですが、教育者でもあります。研究者としては、伝えることのないように自分自身満足しています。つまり提供するものに品質保証ができている、ということです。では教育者としては何を伝えてきたかと言えば、焦ります。ここ数年、伝えそこなっているからです。私はこんな風に考えています。教育者の役割の一つは、死に方を教えることだ、と。死ぬときに、悔しがらないようにしたほうが良い、学生へのメッセージは、自分自身に向けた言葉でもあります。

皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。皆様が良い人生を送られることを祈っています。

【略歴】昭和62年早稲田大学大学院商学研究科修士課程商学専攻修了（商学修士）、平成4年専修大学大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程単位取得退学、平成4年信州短期大学講師、平成7年同助教授、平成10年新潟経営大学助教授、平成15年本学経営学部教授（経営学概論など担当）、平成16年経営学研究科修士課程担当（経営組織論特殊講義など担当）、平成20年経営学研究科博士（後期）課程担当（経営組織論特殊研究など担当）、平成20年就職部長（平成24年3月まで）、平成29年経営学研究科長（令和2年3月まで）

【主な著書・論文・発表等】
著書：『経営を科学する』、『新現代経営学』、論文：「医薬品企業の職務給制度への移行の実態（1）」

法学部教授
加藤（かとう） 信行（のぶゆき）

来年度は非常勤としてお世話になります

国際法の専任教員として1987年に赴任して以来、38年間、本学教職員の皆様には大変お世話になりました。学生諸君には、授業のほかにも、懇親会で、ゼミ合宿で、拙宅で、ときには朝まで飲み明かし、たくさん付き合ってもらいました。毎年みんなで利用した月寒公園野球場も忘れられません。学生気分で本学の生活にどっぷり浸かり、若者たちに活力を与えてもらってきた私にとって、本学を去ることは悲しいかぎりです。

今後は、自宅でずっと家内と二人だけの生活となりますが、来年度は、学部や大学院の授業週5コマ分を非常勤として担当する予定です。私にとっては、若者に接することができる貴重な機会となります。本学への恩返しと心得て、職務を全うする所存です。あと1年お世話になりますが、どうかよろしくお願いいたします。国際法を多くの学生が学ぶことを願っています。

【略歴】昭和56年北海道大学大学院法学研究科公法専攻修士課程修了（法学修士）、昭和59年北海道大学大学院法学研究科公法専攻博士課程単位取得退学、昭和59年北海道大学法学部文部教官助手、昭和62年本学法学部講師、平成2年同助教授、平成7年同教授（国際法など担当）、法学研究科修士課程担当（国際法特論など担当）、平成12年法学研究科博士（後期）課程担当（国際法特論演習Ⅰなど担当）、平成21年法学研究科長（平成24年3月まで）、平成24年学生部長（平成28年3月まで）

【主な著書・論文・発表等】
著書・共編著『概説国際法』（有斐閣）、共編著『ビジュアルテキスト国際法』（有斐閣）、共編著『国際裁判と現代国際法の展開』（三省堂）

豊陵会寄贈絵画⑲

『ポプラ』

北野　清子

【北海道美術協会（道展）会員】
1997年度道展一般入選作（水彩50号）
豊平校舎3号館3階33番教室横展示

《プロフィール》1939年北海道生まれ。北海道NHK文化センター新札幌水彩画講師。北海道美術協会（道展）会友、（社）日本水彩画会会員。1990年・1999年道展受賞、2005年日本水彩展会員奨励賞。「ほおずき」F60号、「夕映え」F60号。

法学部教授
福士（ふくし） 明（あきら）

学園の皆様に感謝

本学には、2009年に移籍し、法学部（2009年～2011年）で自治体法を担当、その後、法務研究科（2011年～2014年）で行政法・自治体法を講じ、2014年に、再び法学部所属（行政法担当）となり、現在に至っています。

本学園では、手稲山を望む見晴らしの良い研究室を本拠地とし、恵まれた環境の中で、研究活動（廃棄物法制・政策法務・行政訴訟の研究）、社会貢献（研究活動の成果を環境省・北海道・札幌市その他の市町村の委員等として活用）、そして教育活動（研究活動・社会貢献の知見を学生と共有、その成果を研究活動に還元）を行わせていただきました。

こうした形の講義・ゼミにお付き合いいただいた学生諸君、お世話になった事務局・守衛さん・清掃スタッフの皆さん、そして関係教員の方々に心より感謝を申し上げます。

【略歴】昭和56年北海道大学大学院法学研究科公法専攻修士課程修了（法学修士）、昭和56年北海道大学大学院法学研究科公法専攻博士課程中退、昭和56年北海道大学法学部助手、昭和60年北海道工業大学教養部講師、平成3年札幌大学法学部助教授、平成10年同教授、平成21年本学法学部教授（自治体法など担当）、法学研究科修士課程担当（行政法原理特論など担当）、平成22年法学研究科博士（後期）課程担当（行政法特殊研究など担当）、平成23年法務研究科教授（行政法など担当）、平成26年法学部教授（行政法など担当）、平成30年法学研究科長（令和3年3月まで）

【主な著書・論文・発表等】
著書：『「廃棄物」概念の研究―解釈論―』、共著『政策法務の理論と実践』、論文：「廃棄物訴訟」

人文学部教授
テレングト アイトル

ヒュマニティーズに戻りつつ邁進を

このたび、27年間勤めてきた本学を退職し、教育者としての務めを終えることとなりました。在職中は学生や同僚とともに日本文学を中心に、人間や文化、思想を複数の言語・国境を越えて探究し、多くの学びと喜びを得ることができ、かけがえのない貴重な歳月だったと感じています。

現在、世界は急速に変化し、AIの進展とともに教育や学びのあり方も大きく転換を迫られています。その根底には常に人文学への回帰と対話があり、人文学の大総合が求められる時期に差し掛かっているのではないでしょうか。今後はこれまでの経験を糧に、人文学が果たすべき役割を問いつつ、誰もがオプティミズムをもって新しいデジタル世代・AI世代の教育・研究を模索していくと信じています。長きにわたる皆様のご支援に心から感謝し、皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

【略歴】平成10年東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻博士課程修了（学術博士）（東京大学）、平成11年本学人文学部助教授、平成13年文学研究科修士課程担当（比較文学特殊講義など担当）、平成14年同教授（比較文学など担当）、平成15年文学研究科博士（後期）課程担当（比較文学特殊講義など担当）

【主な著書・論文・発表等】
著書：『超越への親密性―もう一つの日本文学の読み方―』、『増補改訂版・詩的狂気の想像力と海の系譜―西洋から東洋へ、その伝播、受容と変容』、論文："Concerning Poetic Creativity between Imagination and Allegory: Attempt at an Allegorical Interpretation of Coleridge's 'Kubla Khan.'"

経営学部事務長
石木田（いしきだ） 忠義（ただよし）

昭和・平成・令和と関わった学園の思い出

1985年に大学図書館職員（司書）として採用されてから40年、この3月で定年退職となります。

昭和・平成・令和と北海学園大学で学び、働き、そして大学の大きな発展を実体験してきました。学生時代、大学校舎は1号館から3号館までしかなく、講義はほぼ3階と4階の教室で受講しました。職員として採用後すぐに、現在の図書館棟が新築されて、新図書館への引越作業（図書館フロア全体の配置計画、開架図書や閉架図書の配置）を集中して行ったことが、思い出されます。

その後、平成から令和にかけて学部新設や学生数増加により5号館から8号館まで設置され、その計画にも一部ですが関わったことが、職員及び前身といえる部署で一九九八（平成十）年三月で解体になりましたので、現在北海学園に勤務している事務職員で教養部勤務経験があるのは、あと一人になりました。また、私は札幌学院大学の出身ですが、現時点では事務職員のなかで最後の札幌学院大学卒業生となります。母校の恥とならぬよう心がけてきたつもりですが、振り返るまでもなくエラーが多く、教職員のみなさんからの数々のバックアップによって、なんとか三十二年間持ちこたえることができたと感じています。

また、職員親睦の野球チーム「北海学園ノンキーズ」でも、多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。

【略歴】平成5年北海学園大学教養部書記、平成7年同主任、平成10年経済学部主任、平成13年法学部主任、平成21年同係長、平成25年図書館事務長、平成29年経営学部事務長、平成31年入試部入試課長、令和3年経済学部事務長

経済学部事務長
武田（たけだ） 雅志（まさし）

教職員のみなさんのバックアップに感謝

一九九三（平成五）年に北海学園大学事務職員として採用されました。入る前は図書館勤務と聞いていましたが、教養部に配属となりました。教養部は現在の教務センターの

工学部教授
早矢仕（はやし） 有子（ゆうこ）

未来展望

大量絶滅時代の鳥たち

昨年の秋、「スズメが絶滅危惧種に？」と話題になったのをご存知でしょうか。正確に言うと、年間の個体数減少率が絶滅危惧種に認定される要件に達していた、と報道されたのですが、それでも驚きですよね。私たちにもっとも身近な野鳥に絶滅の恐れがあるなんて。

スズメに限らず、日本に住む約600種の鳥のうち、15％の種が絶滅の危機に瀕しています。世界中に分布する全11,000種の鳥類でも同様です。私は、絶滅危惧種の1種で、日本では北海道だけに生息しているシマフクロウという魚食性の大きなフクロウを研究しています。アイヌの呼称「コタンコロカムイ」に聞き覚えが有る方もいらっしゃるでしょう。古くは松前藩の記録や標本資料等から、北海道のほぼ全域に分布していたことがわかっていますが、現在は東部を中心に約100つがいが生息しているのみです。国が保護事業を始めて40年が経ち、1980年代に比べれば個体数も分布域も回復しつつあります。それでもまだ安心できる数には戻っていませんし、北海道の西半分はほとんど空白のままです。いつか、札幌の豊平川で、サクラマスを狩るシマフクロウを見るのが私の夢です。

シマフクロウが絶滅の危機に陥った主な原因は、住処の森林が失われたこと、主食の魚類が棲む河川環境が悪化したことです。これはいずれも我々人類の仕業です。そしてシマフクロウに限らず、世界中で多くの生物が絶滅、あるいは絶滅の危機に瀕しているのは、たった1種の生物であるヒトに責任があります。

地質年代を遡れば、人類が地球に登場する前に5回、生物は大量絶滅を経験しています。その原因はもちろん自然現象、つまり不可抗力です。もっとも最近起こった5回目の大量絶滅は白亜紀の末（約6500万年前）、隕石衝突により恐竜が滅びたことで有名です。ただ、恐竜の一部は、鳥類への進化を遂げ、絶滅の難を免れました。つまり、カラスもハトも、現生鳥類の全てが恐竜の子孫なのです。大量絶滅時代を経て生命を繋ぎ続けた鳥類を、人類の手で失いたくないですね。

研究室の窓

人文学部教授
岩田（いわた） 哲（あきら）

英語の勉強は何から？

英語学習法について質問を受けることがあるが、目的や適性に合わせ、様々な学習方法を組み合わせることが多い。玉石混交だが、書店には英語学習に関する本が溢れ、ネット上にも多様な学習プログラムや助言が動画として提供されている。中には、文化の違いをエピソードと共に紹介するものもあり、楽しみながら学習できる時代になったといえる。

英語学習と聞くと、比較的高度な内容のテキストを時間をかけて読解し、難しい語彙を一生懸命覚えるといった学習法を思い浮かべる人も多いだろう。確かに努力は必要だが、このような学習方法はとかく苦行になりがちである。英語の基本的な語彙や文法の学習は、確かに最初に必要なステップではあるが、本当に考えるべきは「自分は何をできるようになりたいのか」ではないだろうか。就職に向けてTOEICの点数を上げたいのか、旅行中の食事の注文ができるようになりたいのか。それによって選ぶ教材や学習方法は大きく異なる。

もし、現時点で特に明確な目標がない場合、楽しく、一人でできて、人生を豊かにする学習方法として、多読や多視聴をお勧めしたい。重要なのは「楽しむこと」であり、教材のレベルが自分に合っていることが非常に重要になる。内容に興味が持て、辞書がなくても概ね理解できるレベルが理想である。語彙や文法は意図的に学ぶ方が効率的であることは研究からも明らかだが、多読や多視聴には、様々な文脈を提供し、知識の定着を助ける効果がある。

多くの海外映画やドラマがストリーミングで手軽に視聴でき、英語学習者向けに語彙の難易度を抑えた本（グレイデッドリーダーズ）も数多く存在する。そういった本は、無料またはX-Readingなどのプログラムから安価に利用できるものが多い。目標言語で書かれた本を1冊読むことは大きな達成感と、新たな動機づけを与えてくれる。実物の本が好みなら、本学をはじめ多くの大学図書館に充実した蔵書があるので是非ご活用いただきたい。

北海学園学術研究助成事業報告㉜

研究課題

日本における労働者の権利意識と労働問題の解決の基盤

法学部教授　淺野（あさの） 高宏（たかひろ）

1976年生まれ。早稲田大学法学部卒、北海道大学大学院修士課程修了、同博士課程単位取得退学。2000年司法試験合格、2002年10月に第一東京弁護士会に登録し、2006年より札幌弁護士会に登録替え。2014年ユナイテッド・コモンズ法律事務所設立、代表弁護士。札幌簡易裁判所民事調停官、北海道紛争調整委員会あっせん委員のほか、北海道大学法科大学客員准教授を務め、2011年より北海学園大学法学部准教授、2017年4月1日より同教授（現職）。専門は労働法。著書に「労働法の基本　第2版」（共編著、法律文化社）、「学生のためのワークルール入門　第6版」（共著編、旬報社）など。

ワークルールを学び社会で活かす

日本における労働者の権利意識は年々低下している。1973年から5年ごとに実施している「日本人の意識」調査をまとめた「現代日本人の意識構造［第九版］」（NHKブックス、2020年）では、表現の自由と団結権の認知度が低下していることが指摘されている。団結権の認知度に至っては、1973年の39％から2018年には18％まで減少しているとされる。この推移は労働組合の組織率の低下（1973年は33％程度で、現在は16％程度）とも相関しているように思える。こうした権利の認知度の低下は、労使の健全なコミュニケーションを阻害する。労働者側が主体的に使用者の権限行使をウォッチする力がなければ、法的には許されない使用者による一方的な人事措置を労働者はただ受忍するか、退職により問題状況から退避するかの二者択一という悲しい状況を生む。近時は、ビジネスと人権が社会的にも注目されるようになったが、某マスメディアにおける人権軽視の風潮が人権侵害案件への対応を誤らせ、企業の存続そのものまで危うくさせる事態に発展している。こうした例に共通するのも職場において労働者に主体な交渉力が欠如している点である。労働者に求められているのは、職場のトラブルに包摂されている法的問題点を発見し、相談するための知識と力量である。そして、問題を解決まで導くまでの筋道を知り、トラブルが顕在化する前に予防するための手法を検討することが重要となる。

そのためには何が必要か。それは社会の中で働く一市民として習得しておくべき教養としての労働法の習得だろう。こうした観点から、労働法教育を「ワークルール教育」と呼称して、そのあり方の研究を進めている。

私が大学のゼミナールで取り入れているのは模擬裁判の手法である。実例としては、非正規雇用の契約期間満了による雇用打ち切り（雇止め）の事例を用いて、労働者、会社担当者のそれぞれの言い分を読み、当事者役、それぞれの側の代理人弁護士役、裁判官役に分かれて、裁判形式で事案の解決を考えるというものである。

この場合に必要となるのは労働法の専門知識よりも、言い分を読みリアルに労働者の立場や会社の立場を想像して解決を構想する想像力である（創造力といえるかもしれない）。こうしたロールプレイ形式の学習の中で学生たちは①何が問題なのかを発見・認識し、②関連する法的ルールを調査・把握し、③これを解決するための権利実現の手立てを知ることができる。さらに法学部以外の学生や社会人がワークルールを学ぶ機会としては、私も試験問題の出題を担当している「ワークルール検定」を推奨している。今年に入り、政治も動いている。超党派の非正規雇用対策議員連盟がワークルール教育の重要性を踏まえ、ワークルール教育推進法の制定を議論する会合を開催するようだ。もし新法成立となれば、ワークルール教育が学校教育や社会人教育に拡大する推進力になる。これからの社会を担う若い世代が法的に正しい知識をもち、それを職場で共有できれば、労働条件や職場環境をよりよく変えられる。そのためにも、働くもの一人ひとり（実効性を持たせるには使用者も）がワークルールを効果的に学ぶ方法の研究を重ねていきたい。

ワークルールの関連資料

法学部・館田晶子ゼミ
映画「ハーヴェイ・ミルク」上映会開催

映画からLGBTQを考える

法学部・館田ゼミは2024年11月10日、かでる2・7において「映画『ハーヴェイ・ミルク』上映会&アフタートーク―観て・聴いて・話して学ぶLGBTQ―」を開催した。全米で初めてゲイと公言して公職に就いたハーヴェイ・ミルクの生涯を追ったドキュメンタリー映画を上映後、ゲストとゼミ生とのアフタートークを行った。ゲストは、午前の部には道議会議員でトランスジェンダーの渕上綾子氏と「なるべき！ALLY」副代表の葦澤智史氏、午後の部には「婚姻の自由を全ての人に北海道訴訟」原告の中谷衣里氏と、本学法科大学院出身の弁護士で同訴訟弁護団の林拓哉氏をそれぞれお招きした。

ミルク氏は1970年代アメリカで同性愛者を始めとするマイノリティの権利拡大のために奔走し、最後は凶弾に倒れる。トークではゼミ生や会場から、セクシャルマイノリティが直面する社会での困難、同性婚を認めない民法の合憲性、法制度と社会の意識変化など多くの質問が出た。また、当時から時代を経て理解が進んだところがある一方で変わらない課題もあるという感想に皆うなづく場面もあり、充実したトークイベントとなった。

午後の部アフタートークの様子

水ネットワーク北海道主催 講演会開催

11月20日に本学豊平キャンパスAV4教室にて、水ネットワーク北海道が主催する講演会が開催された。水道技術経営パートナーズ株式会社の山口岳夫代表から「水道界における公民連携の事例と役割～具体例からみた公民連携のポイント～」と題した講演が行われ、水道界における公民連携の形成の背景や制度の変遷が紹介されたあと、水道事業における公民連携を推進・展開する上でのポイントについて、過去の事例を踏まえた考察が示された。道内の地方水道へ関心が高い産官学の関係者が道内外から多数出席し、同時配信されたオンライン視聴者を含めて計114人が参加した。

水ネットワーク北海道は、道内各地で水インフラ整備に関わる関係者のネットワークを形成し、情報共有とともに特に多くの課題を抱える地方の水インフラの今後を議論できる場となることをめざして、2024年9月17日に設立された。道内各地で上下水道事業や河川整備事業に関する業務に従事する本学土木工学科および社会環境工学科の卒業生約70名で構成されるOB会「水ネット・山鼻」を母体としている。会長は社会環境工学科の山田俊郎教授、副会長は安藤直哉准教授、幹事長は余湖典昭名誉教授、幹事には松井佳彦客員教授、土木工学科OBの清野馨氏（石狩市）や斎藤貴視氏（岩見沢市）らが就任している。

この講演会の様子は、日本水道新聞と水道産業新聞の2紙に、水ネットワーク北海道の活動とともに掲載された。

水ネットワーク北海道の詳細はこちらから

多数の関係者が出席した

経済学部・濱田研究室

地域研修が北海道新聞空知版に掲載

経済学部・濱田研究室のゼミ生が考えた「札幌発の沼田町日帰りバスツアー」の実証実験が12月1日に行われ、その様子が「沼田の魅力、札幌から探る　日帰りツアー実証実験　北海学園大生考案」として北海道新聞空知版に掲載された。

このツアーは、地域活性化に取り組む「まちづくりぬまた」が計画し、学生がツアーの内容を考案。実証実験の参加者は2つのグループに分かれ、沼田町の美しい風景を撮影したり、自ら収穫した地元産のトマトを使った本格的なピザづくりを体験した。沼田町の魅力を発信するPR用として動画を作成し、SNSにて「いいね！」など多くの反応が集まれば、それに応じて町から特典が贈られる。

今後は参加者のアンケート結果を踏まえ、「まちづくりぬまた」による事業化を目指していく予定だ。

実証実験の参加者の集合写真

経済学部 藤田知也（ふじた ともや）准教授

キャリアビジョン協会にインタビュー掲載

キャリアビジョン協会のウェブサイトにて、本学経済学部・藤田知也准教授のインタビュー記事「黄色線区、『存続』か『廃止』か　若い世代の視点から切り開く地域課題」が公開された。

記事では、藤田先生が指導するゼミで実施された、室蘭線黄色線区（岩見沢―沼ノ端間）をテーマとした地域研修について紹介されている。JR北海道が自社単独では維持が難しいと判断した路線区分のうちのひとつである室蘭線黄色線区について学生たちがデータを集め、沿線自治体の担当者から直接話を聞き、現地視察、意見交換を通じて、多角的に課題を検討した経緯が述べられている。「単なる路線の活性化の模索ではなく、路線の存続意義そのものを問い直し、地域とともに解決策を模索する機会になれば」と藤田先生。地域研修では自治体や企業の要望に従順になりすぎず、学生が自分たちの視点や自由な発想を大切にして、成長できる場であってほしいと語った。

キャリアビジョン協会のウェブサイト

経済学部 藤田知也准教授

経済学部 宮入（みやいり） 隆（たかし） 教授

北海道新聞にインタビュー掲載

12月18日の北海道新聞「水曜討論」に、本学経済学部・宮入隆教授の「北海道で暮らす外国人労働者の受け入れ実態」についてのインタビューが掲載された。

記事は「道内で増える外国人　欠かせない存在　習慣の違いからトラブルも　共生社会どう実現」と題して、北海道で暮らす外国人が労働力不足に悩む地方や各産業の現場にとって欠かせない存在となっている一方、異なる文化や生活習慣を背景に地域住民とトラブルに発展する例も相次いでいることが述べられている。

北海道では現在、6万人を超える外国人が暮らしている。宮入先生は、2027年度までに導入される新しい在留資格「育成就労」制度に触れながら、事業者や地域に求められる意識改革について言及。道内は人口減少が進み、外国人なしでは地域経済は維持できない現状で、労働者に北海道を選んでもらう必要がある。労働条件の改善、職場の雰囲気や人間関係の良さ、医療機関や行政窓口の多言語化といった生活のしやすさなどを整えることで、外国人とともに歩む覚悟が求められていると語った。

経済学部 宮入隆教授

学長賞授与

9月21日～23日に長野県佐久市で開催された第4回全日本マスボクシング選手権大会U―30女子160cmまでの階級（日本ボクシング連盟主催）で、ボクシング部の西出彩華さん（人文学部2年）が見事優勝という成績を収めた。

これを称えて、11月8日に関係者同席のもと、森下宏美学長から学長賞が授与された。

西出彩華さん（右）と森下学長

株式会社キャリア・ナビゲーションから寄付金受領

11月7日、株式会社キャリア・ナビゲーションより、本学工学部建築学科の学生の教育と研究のために、教育および研究奨励寄付金が贈られた。

将来の建築を担っていく本学建築学科の学生が教育や研究を通して、建築の多様なあり方を学び経験を積むために活用される。

株式会社キャリア・ナビゲーション 長嶋哲夫代表取締役（右）、工学部 岡本浩一教授

研究室を訪ねて Vol.18

経済学部経済学科
比嘉 一仁（ひが かずひと） 准教授
【ミクロ経済学】

琉球大学卒業後、一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士（経済学）（一橋大学）。研究テーマは家計の消費行動、人口移動。

本学で活躍する専任教員の研究を、その人となりとともに紹介する「研究室を訪ねて」。第十八回は、ミクロ経済学の授業を担当する経済学部の比嘉一仁准教授の登場です。

人の移動や消費行動
社会の格差をデータでひもとく

―比嘉先生は2024年4月に本学に着任、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱの授業を担当されています。ご専門の応用ミクロ計量経済学というのはどういう学問なのですか？

比嘉　ごく簡単に言えば、経済学の理論で言われていることがデータではどのように現れるのか、また、現実の経済社会ではどのようなことが起きているかなどを、データを用いて実証的に分析する学問です。この方法を使って行っている私の主な研究テーマが、人口移動と消費行動。どちらも格差と関係のあるテーマです。

―例えば人口移動では、どのような要素が人口の移動に関係するのですか？

比嘉　要素はものすごく多いのですが、例えば仕事や教育機関、保育園や医療機関、それに自治体から住宅への補助金の有無なども関係します。

―どういう属性の人や層が何を求めて移動するのか、とても興味深い研究ですね。

比嘉　はい、結果は政策提言に活かしてもらえると思います。

―自治体と言えば、先生はどちらのご出身ですか？

比嘉　沖縄県中部の北中城村（きたなかぐすくそん）という所です。那覇まで車で30分程度で行けるので、必ずしも那覇に住む必要性は感じませんでした。一方で、北海道では札幌に人が集中しているのが気になります。市町村間の距離感覚が沖縄とは違いますね。

―先の人口移動のお話に関係しますが、先生は本学でのお仕事のために沖縄から北海道に移住されたわけですね。いつ頃から研究者を目指されたのですか。

比嘉　私は琉球大学時代に1年間休学してアメリカに語学留学をしたんです。帰国して、将来どうしようかと考えていた時にたまたま計量経済学の授業を取ったのですが、世の中の現象をデータで実証的に分析することが面白くて、もっとこの勉強を続けようと、東京の一橋大学大学院に進みました。当時、同大学院には労働経済学や教育経済学の実証研究で注目されていた川口大司先生がいらっしゃったので、先生から学ぼうと。川口先生はその後東大に移られて、今では大御所ですが、15年ほど前の当時は若手のバリバリ。その研究スタイルも魅力的で。その頃には、将来は自分も大学に籍を置く研究者になろうと考えていました。

この大学院時代に、一橋大学大学院とOECD（経済協力開発機構）が連携したプログラムのインターンとして、半年間パリで幸福度の研究に携わりました。

これは、千人くらいの人に毎日その時の気分・主観的な幸福度を電話で聞いて集めたとても貴重なデータを使った面白い研究でした。

―幸福度も、とても興味深いテーマです。

比嘉　私が研究者になったのは、研究が面白いということはもちろんですが、実は就職するのが怖かったからでもあるんです（笑）。日本は新卒一括採用で、多くの場合、大学での勉強とは関係のない仕事をします。私はゼロから仕事をスタートする勇気がありませんでした。

それで博士課程修了後は九州大学や内閣府経済社会総合研究所での研究員、沖縄国際大学での大学教員の経験を経て、本学に転じました。

格差は消費行動で見る

―2000年頃から低賃金で不安定な非正規雇用が増える一方、超富裕層も増えていて、格差が大きな社会問題になっています。先生はその格差について研究されているのですね。

比嘉　格差を分析する際、まずその格差を何で測るかという問題があります。例えば、会社員や公務員と自営業者とでは所得の捕捉率が違うため、所得だけで経済力を測ることはできません。

そこで、消費行動がわかる総務省の家計調査のデータを使った研究を行っています。家計調査は全国約9千世帯の家計の収入・支出、貯蓄・負債について6か月間毎日家計簿をつける形で行われる調査です。この30年で所得の格差は広がった一方で、消費の格差は必ずしも広がっていないことがわかりました。研究報告として論文がまとまるのは3年後ですが、現実をデータで示せる応用計量経済学の面白さを実感しています。

豊崎海浜公園 美ら SUN ビーチで娘とお散歩

―最後に学生の皆さんへのメッセージをお願いします。

比嘉　経済学では、将来を見据えて行動することを学びますが、それは普段の生活も同じこと。将来の目標を設定し、それに向けてしっかり準備して下さい。もし希望通りの就職ができなかったとしても今は転職しやすくなっているので、次を見据えて行動を最適化しましょう。

また、北海道に来たので、今後は観光客の消費行動をテーマに研究し、成果は国際学会でも発表していきたいと思っています。

比嘉先生のプチ解説

消費で格差を測る意義

格差は、様々な方法で計測されています。その一つである所得で測る方法には、いくつかの欠点があります。給与所得者については比較的正確に測ることができますが、自営業者などでは、所得の捕捉が難しいことが議論されています。また、経済学における「ライフ・サイクル／恒常所得仮説」によると、人はその時々の所得ではなく、生涯資産もしくは恒常所得（一時的な変化を伴わない安定的な所得）をもとに消費を行うと考えられます。そのため、所得の変化よりも消費の変化の方が小さいと考えられます。従って、消費を用いることにより、厚生（もしくは幸福感）の差という意味での格差を測る際には、所得で測る格差を補完しうると考えられます。

開発研究所特別講座

経済学部准教授　藤田 知也（ふじた ともや）

2025年1月10日、函館市で「都市観光における公共交通機関の役割と意義」をテーマに開発特別講座が実施されました。今回は「函館湾岸価値創造プロジェクト」との共催で、特別講座の後に実施された「（仮称）函館地域課題検討会議」へのイントロダクションとしての講座でした。

文化・芸術などの複合的な機能を楽しむ都市観光において、公共交通機関は重要な役割を持ちます。ある観光施設や宿泊地への移動に公共交通を利用することが一般的ですが、公共交通の利用そのものを目的とした需要もあり、観光目的での公共交通利用を増やすには、「なんか乗ってみたい！」と観光客に感じてもらうことも重要です。また、MaaS（Mobility as a Service）という概念も登場し、日本でも「○○MaaS」のようなMaaSアプリが多数開発されていますが、「1つのサービスとして」公共交通がシームレスに利用できるMaaS本来の理念とは程遠いのが現状です。

函館は公共交通が整備されている地域ですが、昨今の運転士不足の問題は函館でも見られています。公共交通の効率化と再構築は全国的に見られている難しい課題ですが、函館では、観光地の混雑といった課題の解決も射程とした公共交通の在り方を検討する必要があります。

講義の様子

発達障害やメンタルヘルスの問題を抱える学生の援助資源について

11月23日にNPO法人多様な学生の支援を本気で考える会主催、本学学生カウンセリング室の共催で「発達障害やメンタルヘルスの問題を抱える学生の援助資源について」と題したセミナーが開催されました。今年度のセミナー開催はこれで4回目となります。

今回のセミナーでは『大学生の学生生活について』および『大学生活全般の支援とメンタルヘルスについて』という2つのテーマで本学学生カウンセリング室のスタッフが講演を行いました。学習や進路・就職面に関する近年の大学生事情、発達障害やメンタルヘルスの問題を抱える学生の実態や大学で受けることのできる合理的配慮に基づく支援やその仕組みについて解説が行われました。また、北海道労働局の大加瀬敦様をお招きし、『専門学校生の学生生活、発達障害やメンタルヘルスの問題を抱える学生の就職・準備について』という演題でご講演頂きました。障害者雇用の現状や就活に向けた心構え、活用できる社会資源について解説して頂きました。

この回もオンラインや対面で本学関係者に留まらず、近隣の高等教育機関や高等学校関係者にご参加頂きました。今後は支援者間のネットワーク作りにも寄与できればと思います。

黒澤祐莉カウンセラー

近年、多様なメンタルヘルスの問題を抱える学生が増加傾向にあり、大学でも修学面でのサポートに留まらない幅広い対応が求められています。令和5年3月に閣議決定された障害者基本計画（第5次）においても、障害学生が在籍する大学等において、当該学生向けの求人情報の提供や就職先の開拓、就職活動支援を行う大学等の割合を令和9年度には概ね100％に到達させることが数値目標として掲げられています。

こうした動きを受け、キャリア支援センターと学生カウンセリング室が連携し、11月25日に本学では初めてとなる「心とキャリアのサポート相談会」を開催しました。今回は障害の有無に限定せず、コミュニケーションの苦手さ、就職活動での心配、社会でうまくやっていけるかへの不安などを抱えている学生に参加を促したところ、多数の参加がありました。相談内容からも多様な就職活動支援へのニーズがあることが改めて確認されたところです。

困難を抱える学生当事者の声を参考にしながら、今後もよりよい支援のあり方について検討を続けていく必要があると考えられます。

心とキャリアのサポート相談会

左から向井晃平キャリア支援センター事務長、佐藤大輔キャリア支援センター長、田中勝則経営学部教授、黒澤祐莉カウンセラー

栗山英樹特任教授が講演

12月21日、教職課程対象の「教職実践演習特別講義」にて、本学園特任教授の栗山英樹氏が講義を行った。

栗山氏は自身の監督経験から、選手の成長のためのアプローチはひとりひとり違っており、人間そのものを知ることが大切だと話し始めた。選手起用の際の声かけや、怪我人への配慮など、状況や人柄によって対応は変わる。監督として選手に接してきた経験は、教員を目指す学生たちにも共通している部分があることを伝えた。

栗山英樹特任教授

優秀な選手たちは「できる、できない」ではなく「やるか、やらないか」で物事を判断するという。自分が少しでも「できない」と決めてしまうと、できるはずのこともできなくなってしまう。結果は後からついて来るのでまずはやりきる、その感覚が重要だと語る。「人は誰でもものすごい力がある。今、うまくいかないとしたら、自分の能力の使い方がわかっていないだけ。将来のビジョンを見据えて、今できることを頑張ってほしい」とメッセージを送った。

最後に質疑応答が行われた。学生から現状の悩みや課題について質問された栗山氏は、教育者としての立場でアドバイスを送った。

北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク

HSFC（エイチフォース）に参加

HSFCとは、北海道内にある大学等の研究機関から新たな「研究開発型スタートアップ」を創出・育成し、地域の経済活性化を図ることを目指す、創業支援プラットフォームです。道内広域に点在する大学と高等専門学校・自治体・金融機関などがネットワークを結び、研究シーズの発掘から、起業と事業拡大に必要な情報・資金・環境などを一貫してサポートしています。

本学では2024年度から、北海道地域のスタートアップ支援に関する連携枠組みHSFC（エイチフォース）に共同機関として参加しており、これをきっかけに「スタートアップ支援室」を地域連携推進機構に設置し、学生等のビジネス創造や起業・創業に関わるサポートを始めています。

2024年度第一学期には「スタートアップ講座」を開講した他、2025年度からはアントレプレナーシップ講座「ビジネスデザイン実践講座」も開講することとしています。こうした支援体制に加えて、萌芽的なビジネスアイディアを具現化し、その可能性を模索的に探求する実験施設として2025年4月から本格稼働するのが、教育会館1Fの学内販売拠点「Mets」（Marketing Experimental Trial Site）です。

Metsでは、実現可能性が見通しにくい挑戦的なビジネスアイディアをソフィスティケート（洗練）するための実験的な販売を行ったり、それを通じてマーケティングに関するデータ収集等を行うために活用されます。2025年1月には、本格稼働に先駆けて2つのテストケースが実施されました。

1月14・15日には最初のテスト販売として、経営学部佐藤大輔ゼミナールのプロジェクトチームが地域のベーカリーと連携したパン販売を実施しました。また、1月20日、22日、24日の3日間では、札幌市の「大学による公益的事業の推進事業補助金」を活用して、札幌市保健福祉局との連携により実施している「札幌市におけるウェルネス推進活動に関するプロジェクト」に関わる物販を無印良品などとのコラボで実施しました。

今後Metsでは学生等の自由な発想に基づいた挑戦的な取り組みを積極的に支援していくことにしています。様々な取り組みを展開する予定ですので、ぜひ今後の活動にもご注目ください。

パン販売「チェットベーカリー」

パン販売「パン工房 りんごの木」

無印良品とのコラボ

国際交流プログラム

海外研修で異文化体験

短期派遣　カナダ・レスブリッジ大学

See you again

経営学部経営学科3年　手塚（てづか） 瑞葵（みずき）

カナダ人の優しさに包まれた留学生活は、私にとって人生の財産となりました。ホストファミリーや友人をはじめ、多くの方々に支えられ、心から感謝しています。

ファミリーが温かく接してくれたおかげで、新しい環境にもすぐに溶け込めました。特にキャンプでは、17時間のドライブを経て辿り着いた大自然の中で、星空を眺めながらキャンプファイヤーを囲む特別な時間を過ごしました。また、一昨年本学を訪れた交換留学生とレスブリッジで再会し、札幌の思い出を語り合った時間は昨日のことのようです。

異なる価値観を受け入れ、深い信頼関係を築いたことで文化の本質を学び、異文化理解の重要性を改めて実感しました。オンラインで簡単に世界とつながる時代ですが、実際に足を運び国境を越えることでしか得られない景色や経験があります。

この留学で培った学びを胸に、これからも新たな挑戦をし続けます。さらに成長した姿で彼らと再会することが今の目標です。

See you again.

レスブリッジで出会った仲間たちと

［経営学部］中村研究室 ×［工学部］新沼研究室

学際連携で実現！

北海道の魅力を詰め込んだ学生発クラフトビール

経営学部の中村暁子ゼミでは、Trans Brewing（札幌市豊平区）と連携し、クラフトビールの商品化に取り組んできました。今年は新たに、工学部の新沼協研究室が参加し、醸造用オリジナル酵母を提供。2025年1月にクラフトビール「Club PASA」が誕生しました。

商品化に至るまでに中村ゼミでは、「北海道の学生初！　地域の魅力を発信するクラフトビール」というテーマのもと、4つのグループに分かれて市場調査を行いました。そして道産食材を活かした初心者にも飲みやすいビールを企画・提案。その結果、仁木町の村田果樹園のプルーンを副原料に使用することが決定し製品化に至りました。ビアスタイルはフルーツエールです。また、アルコール度数やIBU（苦味の単位）は、仁木産食材を使用させていただいたことから「2・9%（ニキ）」となっています。商品名やラベルデザインも学生たちが手がけています。

道産素材で商品開発

一方、新沼研究室では、これまでのワインの酵母研究を活かし、学生らがビール醸造において重要な役割を担う酵母を選定。この酵母により、フルーティーで飲みやすい味わいを実現しました。

文系と理系の枠を超えた学際的な本プロジェクトは、地域の魅力を発信する新たな一歩となりました。『Club PASA』は札幌市内の酒販店で販売中です。

完成したクラフトビール「Club PASA」

工学部 建築学科

「北の住まい住宅設計コンペ」2作品が受賞

第49回北の住まい住宅設計コンペにおいて、田中篤史さん（建築学科2年）の作品が奨励賞を受賞、有村萌花さん（建築学科4年）と牧野茜さん（同2年）の共同作品がベスト10に入選した。

奨励賞受賞作品「船乗の家」
建築学科2年 田中篤史

ベスト10入選作品「漂う風情、薫る風」
建築学科4年 有村萌花、建築学科2年 牧野茜

沼田町空き家リノベーション・プロジェクト完成

2017年から工学部建築学科では、岡本研究室を中心に沼田町の空き家リノベーション活動に取り組んでいる。2019年度には本学と沼田町との包括連携協定締結にもつながり、活動を継続している。

今年度の4巡目は、9月11日から5泊6日。2日目と3日目の間にメンバーの入れ替わりがあり、後半は22名の学生がプロジェクトに参加した。後半の作業は各所の見切り施工、クロス貼り、クッションフロア敷き、木肌が見えている梁や柱の塗装を行った。壁や床の仕上げが進むにつれ、各所の縁の仕上がりに甘さが目立ち始めたが、より丁寧な納め方を模索し、お披露目会の前日にすべての作業を完了させた。

最終日のお披露目会には、移住体験中の方々やお子さん連れのご家族など、多くの方が参加。労いの言葉やアドバイスをいただき、学生たちは完成の喜びと大きな達成感に包まれた。

岡本ゼミメンバー

町長さんと記念撮影

工学部 卒業研究発表会

4年間の集大成となる工学部各学科の卒業研究発表会が、2月に山鼻キャンパスで行われた。緊張しながらも充実した面もちで研究内容を説明。鋭い質問にもしっかりと対応した。

建築学科 設計（2月3日）

建築学科 論文（2月4日）

生命工学科（2月4、5日）

電子情報工学科（2月4、5日）

社会環境工学科（2月19、20日）

私の学び

法学部法律学科4年　小林（こばやし） 侑市（ゆういち）

全学應援団指導部を復活

私は全学應援団指導部（以下指導部）の第六十九・七〇代団長を務めました。きっかけは本学出身の衆議院議員事務所でインターンをしていたことです。事務所で應援団OBの武市憲一先輩にお会いし、コロナを通じて団員がいなくなり、休止になった指導部を復活させて欲しいとのお願いを引き受けました。應援団を知らなかったので暗中模索の中OB先輩からのご指導も受けながらスタートしました。

主な活動は、各部活の応援と学内外行事参加です。応援活動では応援席の前に立ち、応援指揮という腕を前や横に振り下ろしたり、突きをする動きを行い応援をリードします。また学生注目という盛り上げる話や、エールを切ります。また「勝てば選手の力、負ければ指導部のせい」という心持ちを持って活動しています。

多くの活動をチア部と吹奏楽団と共に行います。そのため指導部は常に、応援席の皆様と共に活動する2団体を調整します。また、対戦校に応援団がいる際や応援団連盟のイベントの際は、他校と話し合いをして進めます。

このような人前に立ち、導き、他人のために全力を尽くすリーダーとしての側面と、物事の調整役としての側面を指導部に入り学びました。これからも団則「規律・礼儀・団結」を持って、札幌をそして『北海道を世界の宝に』するべく、みなさんを全力で応援する存在でありたいと思います。

押忍

札幌学生野球秋季1部リーグ戦にて

学園人脈記

第30回

株式会社 品田電気商会
代表取締役社長 品田（しなだ） 新一（しんいち） 氏

経済学部経済学科 平成10年度卒・46期生

多種多様な業界で活躍する同窓生をリレー形式で連載している「人脈記」。前回登場のすがの公さんが、同期で株式会社品田電気商会の代表、品田新一さんを紹介してくれた。

■　■　■

「大学時代を振り返ると、思い出すのは友達の顔ばかり」と話す品田さんは、演劇研究会と文化協議会本部に所属し、学生時代の多くの時間を文化棟で過ごした。

「文化協議会で一番大きい役割は、毎年1週間くらいかけて全道の小学校をまわる講演。演劇や軽音楽などのサークルがバス1台、トラック1台で一緒にまわります。1日2公演で10校ほど。なかなか過酷なスケジュールだったんですけど、それも含めて楽しかったです」

演劇研究会では舞台音響を担当。同じサークルのチームナックスなど、プロの興行を手伝う機会もあった。「音響は単純に音を出すのではなく、どのように聞かせるかとか、どうしたら面白いかを考えるようになりました。大学もそうだと思いますが、授業をこなすだけではなく、自ら進んで学びを深める。どうすればもっと良くなるか、と常に考えるようになったのは、サークルでの経験があったからだと実感しています」

■　■　■

卒業後は舞台関連の仕事をしようかと悩んでいた品田さんだが、興味のあった金融関係の就職も目指し、地元の稚内信用金庫に内定を貰った。その頃、品田電気商会を経営していた父が倒れてしまい、心配した品田さんは稚内に戻ることを決め、内定先へそのまま就職した。

「信金では3年半勤めて、家業の品田電気商会を継ぎました。父が病気をした後にいろんな方が声をかけてくれて。『親父が病気なのに、なんでお前は銀行に勤めてるんだ』って言われたり（笑）。気にかけてくれるということは、父がいい仕事をしてきたんだなと、それを大事にしたいと思いました」

■　■　■

品田電気商会は内線工事業だが、仕事内容は非常にユニークだ。道北で開催されるイベントの設営、音響といった業務も行う。

宗谷岬で初日の出を見るイベントは、ライダーに好評だ。企画を始めた頃は年越しの時間まで人出がなく閑散としていたが、現在は全国から何百台ものバイクが集まる行事に成長した。車や自転車、徒歩でやって来る人もおり、「年越し宗谷」と呼ばれて人気を博している。

北海道遺産に指定されている「稚内港北防波堤ドーム」でのライトアップショーも請け負う。彩り豊かな光の演出はドームの魅力をさらに高めるとして、近年注目を集めている。「お客さんの要望やイメージを丁寧に聞いてご提案できるのはうちの強みです。演劇研究会の時に感じたのは、舞台はお客さんがいて初めて成立するということ。仕事でも常に心がけていきたいです」。

文化棟での日々が今に繋がっている

防波堤ドームのライトアップ遠景

ライトアップ内部の様子

［プロフィール］1999年北海学園大学経済学部卒業。同年稚内信用金庫に就職。現在、株式会社品田電気商会代表。

同窓生の声

はばた司法書士事務所／はばた行政書士事務所

司法書士・行政書士 幅田（はばた） 済（わたる）

法学研究科法律学専攻修士課程
平成25年度修了・27期生

自分にとっての「楽しい」を実現する

高校生の時、トイレで政治経済の先生に突然「幅田くん、法学部なんていいんじゃない」と声をかけられたことを機に、法律分野に興味を持つようになった幅田さん。何気なく本学法学部に入学したが、勉強はとても楽しかったという。

「2年次に法律学科を選択してより専門性が高い内容になり、法律学がおもしろいな、好きだなと実感するようになりました」。司法書士という現在の仕事にも繋がるきっかけになった大学時代は、思い出深い4年間となった。

法律学が好きになった幅田さんは「自分が楽しいと思うことを集中してやろう」と、大学院へ進学。研究室にいることが多く、朝から晩まで籠もることもあった。当時は図書館でアルバイトができたこともあり、働きながら大学院生活を送っていた。学部時代は直接交流のなかった先生とも関わることが増え、その人間関係は大きな財産になったと語る。

また、論文や判例をひとつピックアップし、一行ごとに分析するという気の遠くなるような訓練を一年間続け、日本語を読む力・書く力が鍛えられた。この成果は、その後の就職先でも存分に発揮されることになる。

▼　▼　▼

法学研究科修了後は東京の不動産会社に入社。業務部に所属し、不動産売買の契約書や重要事項説明書などの法的な文書を作成し、宅地建物取引士として顧客に説明する仕事を行った。院生時代に培われた日本語能力で、わかりやすい説明や円滑なコミュニケーションを行うことができ、社内外から好評を得た。他社からスカウトの話が出るなど「自分のことを高く評価してくれる企業がある」ことを実感した幅田さんは、ほどなくして転職する。

建売住宅の営業として3年半ほど勤めたあと、札幌へ戻った。司法書士事務所で事務員として勤めながら、司法書士の勉強をし、資格取得後すぐに独立した。

「司法書士の資格にチャレンジしたのは、個人事業主の生活に憧れというか、良くも悪くも自分の裁量で仕事ができる生活が楽しそうだなと思ったからです。前職の不動産業の経験も活かせますし。現在、開業して2年ほどですが、充実した日々を過ごしています」

司法書士の基本業務は登記の申請だ。仕事の成果はどの司法書士が行っても同じと思われがちだが、幅田さんはそうではないと言う。

「どんな仕事でも、質によって差が出ると思います。私の場合、不動産業での経験があるので、相手が何を求めているか気づくことができます。成果までの過程でどれだけ質の高い仕事ができるか、一個一個の仕事を丁寧にすることを意識しています」

学生たちへ「自分にとって楽しいと思うものを大切に、努力するためのエネルギーにしてほしい」と語った。

地域の現場から

航空自衛隊 航空救難団 千歳救難隊

髙橋（たかはし） 昌弘（まさひろ）

法学部法律学科
平成18年度卒・41期生

人命救助を行う機上のスペシャリスト

北海道の空の玄関口と言われる新千歳空港に隣接する千歳基地。市民の多くが自衛隊に関係する職に就いているという土地柄もあり、基地と地域は共存している。

千歳基地でフライトエンジニア（FE）として活躍する髙橋さんは、子供の頃から人命救助をしたいという思いがあった。大学卒業後、民間企業に勤めながら札幌市消防局の試験を受け続けたが、年齢制限に達してしまい叶わなかった。そんな中、大学時代に知り合った自衛官から、航空自衛隊の救難隊であれば人助けの仕事もできると教えてもらった。

自衛官の試験も年齢制限で最後のチャンスだったが見事合格し、新潟救難隊に配属される。その年度末に、東日本大震災が起こった。

「当時、私は地上でヘリコプターの整備員をしていましたが、被災地に行ったパイロットやFE、救難員の先輩たちがヘトヘトになって帰ってくる姿が輝いて見えたんです。救助に直接関われない悔しさを感じて、私も現場に行きたいと思うようになりました。資格要件を満たして、4年後にFEの選抜試験に合格しました」

合格後は約半年間、「人生の中でも一番きつかった」というほど非常に厳しい訓練が行われ、その後さらに半年ほどのトレーニング期間があり、乗り越えた者だけがFEの任務に就くことができるという。FEの業務は、飛行に関わるデータの算出やシステム監視など機上でのパイロット補佐、救助ワイヤーの操作、被救助者の看護支援と多岐に渡り、幅広い知識と冷静な判断力、体力が求められる。

「あまり目立つような仕事ではないんですけど、パイロットと救難員とを繋ぐ関節みたいな、肝となる役割だと思っています」と髙橋さんは語る。

●　●　●

救難隊は、消防や海上保安庁も行けない過酷な現場で救助活動を行うため、最後の砦と言われる。

「安全に救助活動することを一番に心がけています。助けたい気持ちが強すぎるとミスや焦りに繋がることもあるので、現場に応じて何が一番安全かを常に考えます。また、コミュニケーションも大切です。人の命に関わることなので、後輩でも進言しやすい雰囲気を作り、幹部の方にも物怖じせず言えるような環境を作っておく必要があります。躊躇せず言って良かった、という場面もたくさんあるので」

自衛隊には意外にも様々な職種がある。「体力勝負のイメージがあるかもしれませんが、警備、運転手、調理師、事務などもいます。自分に何が向いているかわからないという人も、ぜひ自衛隊に入ってほしいです」。

髙橋さんが搭乗する救難ヘリコプター「UH-60J」

放送研究会 全国3部門で受賞 ラジオ番組部門は1位

12月7日に京都市生涯学習総合センターで開催された第41回NHK全国大学放送コンテストで、本学放送研究会が、ラジオ番組部門1位を含む3部門で受賞した。放送研究会として6年連続で受賞している。

放送研究会はCOCONO SUSUKINO MID. α STUDIOにて、毎月第4土曜日12時30分～14時30分に館内ラジオを放送している。

COCONO SUSUKINO MID. α STUDIO ウェブサイト

岩本晃大さんと東田純奈さん

学長賞授与

これを称えて1月24日、放送研究会を代表して岩本晃大さん（経済学部3年）、東田純奈さん（人文学部2年）に森下宏美学長から学長賞が授与された。

放送研究会に学長賞授与

少林寺拳法部 全国大会出場

11月3日・4日に日本武道館で行われた第58回少林寺拳法全日本学生大会に本学少林寺拳法部から13名が、11月16日・17日に静岡エコパアリーナで行われた2024年全国大会inふじのくにに3名が出場し、それぞれ全国大会で健闘した。

少林寺拳法部のメンバー

「ハナタレナックス」の収録に本学学生が参加

北海道テレビ（HTB）の番組「ハナタレナックス」の収録が豊平キャンパス内で行われました。

約120名の学生がクイズを回答するモニターとして参加しました。収録の最後には別室でモニタリングをしていたチームナックスのメンバーと対面し、学生たちは大いに盛り上がりました。

なお、今回収録された内容は2月20日（木）から5～6週にわたって放送される予定です。

撮影の様子

キャリア支援センター 就職活動 INFORMATION

卒業される皆さんへ

この度はご卒業おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた皆さんの学生生活も、いよいよ終わりを迎えようとしています。振り返れば、入学式の中止、1年次のオンライン授業主体の学び、さらには部活動や課外活動の制限など、多くの困難がありました。それでも皆さんは柔軟に対応し、それぞれの目標に向かって努力を続けてきました。その経験は、これから社会に出る上で大きな力となるはずです。

就職活動においても、皆さんは大きな変化に直面しました。就職活動の早期化が進む中、企業の採用活動はより多様な手法を取り入れ、インターンシップやオンラインでの説明会を通じた接点が以前よりも早くから始まるようになりました。また、生成AIの普及によって、情報収集やエントリーシートの作成が効率化される一方で、自分自身の強みや価値観を的確に伝える能力がこれまで以上に求められました。技術の力を活用しながらも、自らの言葉で語れる力を磨くことが重要であり、それを皆さんは実践されてきたのではないでしょうか。

こうした状況を乗り越えた皆さんは、すでに変化に適応する柔軟性や、主体的に考え行動する力を身につけています。社会では、多様性を受け入れる姿勢や協調性、チームワークの精神が重要です。また、予測困難な時代にあっても、目標に向かって前進する前向きな姿勢や学び続ける意欲が求められるでしょう。新しい環境においては、自分の役割を理解しながら周囲と協力し、共に成長する力が不可欠です。これらは、皆さんが学生生活で得た多様な経験からすでに培ってきた力であり、今後の活躍の土台となるはずです。

最後に皆さんにお伝えしたいのは、挑戦を恐れず一歩を踏み出すことの大切さです。新しい環境では、失敗や不安を乗り越えることでこそ、大きな成長が得られます。学生生活で培った知識や経験を自信に変え、堂々と社会へ羽ばたいてください。卒業生の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。

在学生を含めた皆さんへ

企業アンケートの実施

昨年12月、本学では企業を対象に「大学の教育活動・学習支援に関する調査」を実施しました。本調査は、本学の学生や卒業生に対する印象、大学へのご要望、採用時に重視する項目などについて回答をいただき、その結果を今後の学生支援に活かすことを目的としています。

本学が社会からどのように評価されているのかを知る良い機会となる調査であり、今回はその一部をご紹介いたします。この結果をもとに、在学生の皆さんにとってより良い支援体制を整えてまいります。

学園生の印象

本学の学生・卒業生について、どのような感想を持っているのか、各項目について5段階評価をしていただいた結果が【図表1】です。

全体の傾向として、「優れている」「どちらかというと優れている」といった肯定的な評価が多かったことが特徴です。特に「規律性がある」や「発信力がある」など、社会的なルールや意見発信に関する項目で高い評価が得られています。

一方で、「普通」という回答が一定割合を占める項目もあり、特に「創造力がある」や「ストレスコントロール力」では中間的な評価が多い傾向が見られました。また、否定的な評価（「物足りなさを感じる」「どちらかというと物足りなさを感じる」）は全体的に少なく、10％程度に収まっています。

本学学生への要望

本学学生に対し、卒業までに身につけて欲しいと思うものをまとめたものが【図表2】です。この結果をもとに、皆さんがどのように自己成長を図るべきかを考えてみましょう。

企業が特に重視しているのは「協調性」や「仕事や学びへの熱意」です。これらは、チームでの仕事やプロジェクトにおいて非常に重要な要素です。日々の授業やサークル活動を通じて、他者との協力や積極的な姿勢を意識してみてください。

また、「チャレンジ精神」や「社会常識、ルール」も高く評価されています。新しいことに挑戦する勇気や、社会のルールを理解し守る姿勢は、社会人としての基盤となります。失敗を恐れずに新しいことに挑戦し、社会の一員としての自覚を持ちましょう。

さらに、「論理的思考力」や「基礎学力」も重要視されています。これらは、問題解決や意思決定の場面で役立つスキルです。授業や自主学習を通じて、論理的な思考力を鍛え、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。

最後に、「発信力」や「文章力」も大切です。自分の考えを明確に伝える力は、どの職場でも求められます。プレゼンテーションやレポート作成の機会を活用して、これらのスキルを磨いていきましょう。

皆さん一人ひとりが持つ可能性を最大限に引き出し、充実した大学生活を送りましょう。自分の成長を信じて、前向きに取り組んでください。

【図表 1】北海学園大学の学生・卒業生についての感想

【図表 2】卒業までに身につけて欲しいと思うもの

卒業生アンケート調査へのご協力のお願い

このたび本学では、卒業後一定の年数を経過した卒業生の方に、教育の成果（役立ち度）、本学への期待・要望、キャリア意識、帰属意識に関するアンケート調査を実施いたします。調査結果は、今後の本学の教育活動等の改善及び在学生への各種支援内容の向上のため役立てます。対象となる卒業生の皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。

■対象となる卒業生

卒業後3年、5年、7年を経過した学部卒業生の方を対象としています。

3年：2022年3月卒業の方、2021年9月卒業の方
5年：2020年3月卒業の方、2019年9月卒業の方
7年：2018年3月卒業の方、2017年9月卒業の方

■アンケート入力先

Googleフォームを利用しています。
ログイン不要・無記名式。
回答時間：3～5分程度

■ご回答期限

2025年6月30日（月）回答締切

■お問合せ

お問合せは、北海学園大学学長室までお願いいたします。（大学公式ホームページのお問い合わせフォームをご利用ください）
https://www.hgu.jp/forms/contact-form.html
本調査の回答は「個人情報の保護に関する規程」に基づき、右記目的以外には一切使用しません。

学長室訪問

▽11月20日　日本高等教育評価機構常務理事 伊藤敏弘氏
▽11月21日　レスブリッジ大学国際交流センター長ポール・パン氏
▽11月30日　TEAM NACS 森崎博之氏、大泉洋氏、戸次重幸氏、安田顕氏
▽12月11日　釧路町長 小松茂氏、産業振興担当参事 池田学氏、総合政策課長 大河原教行氏、商工観光課長 田河智氏
▽12月12日　株式会社島津理化執行役員 江波戸幸博氏、札幌営業所長 森彰平氏
▽12月21日　北海学園特任教授 栗山英樹氏
▽12月23日　紀伊國屋書店営業総本部北海道営業部本部長 佐藤宏典氏、池内情氏
▽1月16日　一般社団法人にじいろほっかいどう事務局長 真田陽氏
▽1月28日　美唄市長 桜井恒氏、経済部長 佐藤剛司氏、経済観光課参事 佐藤正一氏
▽2月25日　木村和範公營教授

4年生の皆さんへ

「進路調査票」提出のお願い

「進路調査票」は、大学から卒業生に対する調査で卒業後の進路について最終確認をするものです。所定の方法で必ず提出するようご協力をお願いします。

提出いただいた情報は、①文部科学省の進路統計調査、②キャリア支援センターの各種統計資料の作成、③出身高校への情報提供、④同窓会活動（会報発送・事業案内）等に使用されるもので、個人情報保護法を遵守しそれ以外に利用することはありません。

提出方法　令和7年3月10日以降、学費支給者宛に送付される成績関係書類に、この「進路調査票」も入っています。記載のQRコードを読み取り、WEB上で回答いただくか、または必要事項を記入の上、キャリア支援センターにご提出ください。

令和7年度 健康診断日程表

■豊平校舎〈学部生〉

学年・健診日		学部・学科	時間
新1年生 4月5日（土）	1部	経済 K1～K3	9：30～10：10
		経済 K4～K6	10：10～10：40
		経営 経営学科	10：40～11：20
		経営 経営情報学科	11：20～11：50
		法 F1～F3	13：10～13：50
		法 F4～F6	13：50～14：20
		人文 日本文化学科 工 社会環境工学科 建築学科	14：20～15：00
		人文 英米文化学科 工 電子情報工学科 生命工学科	15：00～15：40
	2部	経済・経営	17：00～17：45
		法・人文	17：45～18：30
新2年生 4月4日（金） 新3年生 4月3日（木） 新4年生・研究生 4月1日（火）	1部	経済 経済学科	9：30～10：10
		経済 地域経済学科	10：10～10：40
		経営 経営学科	10：40～11：20
		経営 経営情報学科	11：20～11：50
		法 法律学科	13：20～14：00
		法 政治学科	14：00～14：20
		人文 日本文化学科	14：20～14：40
		人文 英米文化学科	14：40～15：00
	2部	経済・経営	17：00～17：45
		法・人文	17：45～18：30

※新1年生：「健康診断問診票」は、入学式で配布される封筒に同封されています。
※新2年生以上：「健康診断問診票」等の事前配布物は、3月3日(月)～31日(月)に医務室前に各自取りに来てください。豊平キャンパスの医務室前でも受け取り可能です。大学院新入生は郵送します。
〈2・3年生〉「健康診断問診票」
〈4年生・研究生〉「健康診断問診票」「尿検査容器」

■山鼻校舎

	学年・健診日	学科	時間
工学部	新2年生 4月3日（木）	男性 社会環境工学科	9：30～ 9：50
		男性 建築学科	9：50～10：10
		男性 電子情報工学科	10：10～10：30
		男性 生命工学科	10：30～10：50
		女性 全学科	10：50～11：20
	新3年生 4月3日（木）	男性 社会環境工学科	11：20～11：40
		男性 建築学科	11：40～12：00
		男性 電子情報工学科	12：00～12：20
		男性 生命工学科	12：20～12：40
		女性 全学科	12：40～13：00
	新4年生・研究生 4月3日（木）	男性 社会環境工学科	14：00～14：20
		男性 建築学科	14：20～14：40
		男性 電子情報工学科	14：40～15：00
		男性 生命工学科	15：00～15：20
		女性 全学科	15：20～15：50
大学院	4月3日（木）	男性 修士・博士	14：00～15：20
		女性 修士・博士	15：20～15：50

※「健康診断問診票」等の事前配布物は、3月3日～2号館3階ロビーに設置しますので、各自取りに来てください。豊平キャンパスの医務室前でも受け取り可能です。大学院新入生は郵送します。

■豊平校舎〈大学院生〉

学年・健診日	時間
新1年生 4月5日（土）	9：30～11：50 13：10～15：40 17：00～18：30
新2年生以上 4月1日（火）	9：30～11：50 13：20～15：00 17：00～18：30

※新1年生：「健康診断問診票」はガイダンスで配布されます。
※新2年生以上：〈最終学年〉「健康診断問診票」「尿検査容器」はガイダンスで配布されます。
〈最終学年以外〉「健康診断問診票」はガイダンスで配布されます。

令和7年度 行事日程

月	日（曜日）	行事	月	日（曜日）	行事	月	日（曜日）	行事
令和7年 4	1（火）	健康診断（豊［4年］）	8	7（木）	第1学期定期試験予備日	2	8（木）	第2学期授業再開
	2（水）	入学式		8（金）	夏季休業開始		16（金）	大学入学共通テスト準備日
	3（木）	新入生ガイダンス① 健康診断（豊［3年］）・（工）		9（土）	第2回オープンキャンパス①		17（土）～18（日）	大学入学共通テスト
	4（金）	新入生ガイダンス② 健康診断（豊［2年］）		10（日）	第2回オープンキャンパス②		26（月）	第2学期授業終了
				13（水）～16（土）	全学休業（事務取扱休止）		27（火）～2/2（月）	第2学期定期試験
	5（土）	新入生ガイダンス③ 健康診断（豊［1年］）	9	12（金）	9月期卒業生発表	3	3（火）	第2学期定期試験予備日
	7（月）	新入生ガイダンス④		20（土）	第2学期授業開始		7（土）	一般選抜準備日
	8（火）	第1学期授業開始		28（日）	第3回オープンキャンパス		9（月）～10（火）	一般選抜
5	16（金）	学園創立記念日		30（火）	9月期卒業証書・学位記授与式		28（土）	特別選抜（社会人Ⅱ期）
6	18（水）	実験生物に感謝する日（予定）	10	11（土）～13（月）	第74回十月祭・第54回工学祭		10（火）	卒業生発表
	20（金）～22（日）	第71回対東北学院大学定期戦(札幌)		11（土）	ホームカミングデー（予定）		11（水）	進級生発表
	22（日）	第1回オープンキャンパス		26（日）	総合型選抜（第2次選考）		20（金）	卒業証書・学位記授与式（予定）
7	30（水）	第1学期授業終了	11	23（日）	学校推薦型選抜・特別選抜		22（日）	第4回オープンキャンパス
	31（木）～8/6（水）	第1学期定期試験	12	27（土）	冬季休業開始		27（金）～31（火）	在学生資料配布、各課程ガイダンス

＊（豊）…経済学部・経営学部・法学部・人文学部・工学部〔1年次〕、（工）…工学部〔2年次以上〕

令和6年度 卒業証書・学位記授与式

3月20日(木/祝) 10:30～12:00予定

式典会場
北海道立総合体育センター「北海きたえーる」メインアリーナ
札幌市豊平区豊平5条11丁目1番1号
※駐車場がないので、公共交通機関をご利用ください

卒業祝賀会

日時　**3月20日(木/祝) 14:00～15:30**

会場
札幌パークホテル 地下2階「パークプラザ」
札幌市中央区南10条西3丁目

参加対象
令和7年3月卒業生・修了生、本学教職員

令和7年度 入学式

4月2日(水) 10:30～11:30予定

式典会場
北海道立総合体育センター「北海きたえーる」メインアリーナ